

別れ路

思い出が足りない憧れが足りない悔しさが足りない
と
冴えた瑠璃に爪立てる

友は皆 孤独に違いない

伸びきった爪に抱き締めることも儘ならず

泣き止まぬ孤児を連れ何処へ行く

叫び出したい程怖いものなど何も無いと

眦に涙滲ませ何処へ行く

酒に酔えず夢に酔えず恋にも酔えず

帰路につく振りをする

友は皆 孤独に違いない

肋骨を擦り合わせた人を引き止める術も無く

後ろ髪に積もる徒花を払い何処へ行く

あのひとが為泣けなくなってしまうと

眉に憂い隠して何処へ行く

書に老い愛に老い旅に老い

対座し言い淀む

友は皆 孤独に違いない

影と戯れ口を開けば虚言となり
他人に化けることも止め何処へ行く
幸せになりたいなどと思えば進めぬと
口を真一文字に結び何処へ行く

忽せにはおけないと

銚子の如き横顔もて何処へ行く

脇目も振らず

何処へ行く

寒窓

恋に寄れば

人待ち顔の幼童あり

温かい胸を探すが如き

空咳の哀しさよ

窓に寄れば

盗み食いする乞食あり

堕ちた鼻を探すが如き

遊ぶ目線の哀しさよ

窓に寄れば

白壁を汚す狂人あり

頬打つ手を探すが如き

浮いた顴骨の哀しさよ

恋に寄れば

病み惚けた老人あり

窓叩く死を探すが如き

優しき微笑の哀しさよ